



青南だより

令和5年 5月号

港区立青南幼稚園

園長 新山 裕之

<関わりを通してお互いに>

新年度が始まって数週間がたちました。ドキドキしながら集団生活を始めた年少児にとっては、全てのことが初めてです。朝は時々泣く子もいますが、先生に抱っこしてもらったり一緒に身支度をしたりするうちに泣き止んで、少しずつ遊びを見つけています。最初の頃は、年長児と一緒に遊んでももらったり、体重測定の際に靴や靴下の脱ぎ履きを手伝ってもらったりしていました。年長児にとっては、小さい子の世話をすることで自分自身の成長を感じる機会にもなっています。

<遊びや生活の基盤をつくっていく>

園庭での遊びでは、ビールケースやタイヤなど自分たちで運んで構成できる遊具が大活躍しています。広い空間に遊具も多くあるので、余裕をもって構成を楽しむ姿があります。年中児は、消防車に見立ててイメージを膨らませて運転をし、そこでの生活を楽しむ姿もあります。一方、年長児はウサギやカメの世話などの当番活動も始めています。去年の年長児に教わったことをベースに、教師と一緒にやり方を確認しながら自分たちで頑張っています。

<作って遊び、遊びに使うものを作る>

園庭の空にこいのぼりが泳ぎ始めました。今年は季節の移ろいが早く、木々の新緑がこいのぼりを応援しているようです。年長児は2人組で自分たちのこいのぼりを作りました。本物のこいのぼりを見上げてかっこいいと思っている年中、年少児も画用紙や折り紙、シールなどを使って自分のこいのぼりを作り始めています。いろいろな素材を使って作ることで新しい遊びが生まれ、作ったもので遊んだり、友達と関わったりする楽しさを知っていきます。



年少児の体重測定を手伝う年長児



ビールケースなどを工夫して作った消防車



年長児がウサギやカメの世話を始めました



園庭の空に元気なこいのぼりが泳ぎます



年長児が友達と相談し協力して作ったこいのぼり

青南の 二十四節気

・・・皐月 (さつき)・・・

立夏 (6日) … 初夏の風を受けてこいのぼりが泳ぎます …

小満 (21日) … 園庭の緑がぐんぐん膨らみます …

5月5日はこどもの日です。子どもたちの健やかな成長を願い園庭にこいのぼりが泳ぎます。園庭のあちこちで、動けないはずの草や木々が、命を輝かせ嬉々として活動している声が聞こえるようです。そんな草花の前でちょっとしゃがんで見ると、意外な発見があります。これは子どもでも同じです。ちょっと姿勢を低くして、子どもの目線に合わせて関わってみると、子どもの言葉や気づきに驚かされるかもしれません。